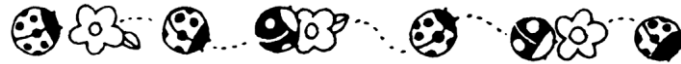


めだかだより

草笛学園 2024年 2月 (最終号)



一年間ありがとうございました！

4月から始まっためだか教室も、最後日となりました。月1回という少ない回数ではありましたが、これまでの活動の中で、家族や友だち、職員と一緒に楽しさを共有し、“もっともっと”“ぼくも、わたしもやってみたい！”と子どもたちの前向きな気持ちに触れることができました。見通しが持ちにくい…、たくさんの方がいてドキドキする…など、不安に思うこともあったかと思いますが、家族の暖かい励ましや支えの中で、“ちょっとやってみようかな”“できた！うれしい！”そんな気持ちを積み上げてくれていたらうれしいなと思います。来年度から、一つ大きくなった子どもたちと、新たな目標を持ち、また一緒に取り組んでいけるといいなと思います。

保護者の皆さんにとっては、1対1で向き合うことで、お子さんへのかかわり方や成長、課題を知る機会となったでしょうか？懇談の時間も、十分ではなかったかと思いますが、少しでも気持ちが軽くなったり、同じ悩みを持つ保護者同士のつながりができていれば幸いです。



「大きい自分になりたい」2歳児

2歳になると、拡大をつづける自我のはたらきを機動力にして、「もっともっと」とおやつを要求するし、「小さい」ものより「大きい」ものがいいとねがうようになるでしょう。そんな生活の中で、ものごとを「対」の関係でとらえ、「〇〇ではない、□□だ」と思考するばかりではなく、「多いー少ない」「大きいー小さい」などと言う比較や対比において捉える対比的認識を持つようになります。2歳になっても相変わらず欲張りであることに変わりはないのですが、友だちがおもちゃを取ろうと手を伸ばしてきたとき、「全部はあげられないよね、でも少しだけ貸してあげたら」などと先生が交通整理してくれると、抵抗するばかりではなく、その「少し」を手渡すことができたりするのです。それは「少しならがまんできるようになったよ」と表現しているような姿です。

このような対比的認識は、友だちとの関係においても発揮され、自分よりも小さい友だちに対して、いつも先生がしているように、着替えを手伝ったり、おもちゃをさし出してあげたりするのです。その姿は、もう「小さい私」ではない「大きい私」になりたいと訴

えているようにみえます

しかし、保育園という大きな集団の中では、必ずしも大きい自分になれるとは限りません。自分より強い子、早い子、しっかりしている子がまわりにいると、「わたしもあんなふうになれるだろうか」という不安を、次第に覚えるようになるのです。それに、自分ではない他者は「ひとまとまり」の集団として目に映るようになるのであり、「小さい自分」対「大きい集団」という構図が目映って、みんなのリズム遊びの輪の中に入ることを躊躇したり、「朝の集まり」で友だちが元気に返事できるのを見て、自分はうつむいてしまうこともあるでしょう。だから心はいつも、「大きい自分になりたい、でもなれるだろうか」という不安にさいなまれるようになります。

このような葛藤を宿すようになったこと、「いや」を連発することは無関係ではありません。「大きい自分になりたい、でもなれるだろうか」という矛盾、葛藤を宿しているときに、あれこれと指図されることには抵抗したいものです。

思春期の反抗を「第2反抗期」と呼びますが、あえて「第1反抗期」と呼ぶならば、それは、2、3才頃の姿なのです。この2つの反抗期に共通することは、自分の今、そして「これから」に不安を持っているということです。そんな不安を宿しながら、「大きい自分」あるいは「大人」としての自己証明が欲しいのでしょう。

この矛盾、葛藤のときに子どもは、はにかんだりモジモジ・グズグズするので、大人は急かしたり、手を出してしまいがちです。そうすると、子どもは地団駄を踏んで怒り出します。子どもは「大きい自分になりたい」というねがいを尊重してほしいし、「できるかなあ」「わかるかなあ」という不安に負けずに、時間はかかっても自分でそのハードルをのりこえていきたいのです。

こんなとき子どもには、「大きい私」になるための道はひとつではないこと、いろいろな道があることを実感してほしいと思います。手をあげて「お返事」することはできなかったけれど、このごろできるようになった「でんぐり返り」をみんなにみせてあげる、王様になって舞台上がることはできなかったけれど、家来として先生といっしょに椅子から立ち上がったなどと、ひとつではない道を伝えたいと思います。

『やわらかい自我のつぼみ～3歳になるまでの発達と「1歳半の節」～』白石正久著

“大きくなりたい…でもなれるだろうか…”そんな思いの中で、「イヤイヤ」と意固地になったり、「デキナイ」と主張してみたり、葛藤する我が子の姿に頭を悩ませることがありますよね。大人に余裕がないと余計にそんな子供たちの姿にもやもや…しちゃいますが、子どもたちの願いがどこにあるのかを探り、関りの引き出しを少しでも増やしていけるといいなと思います。また、外来教室での時間がその機会になるといいなと思いますし、“よし！”と乗り越えていける瞬間を一緒に見守っていける場所になるといいなと思います。

★来年度の外来教室は[りんご教室]になります。開催日は…

りんご①:第1火曜日 9:20~11:30 りんご②:第3火曜日 9:20~30 を予定しています

*3月の中旬には、初回の開催日と年間予定について送付しますので、ご確認のうえ、ご参加ください。